2024年6月

ICAN会報「こどものこえ」VOL. 79

CHILDREN'S VOICES

子どもたちの「日常」を守るために
～冬募金のご報告～

写真：宿題の合間に気分転換をする
児童養護施設「子どもの家」の子どもたち

冬募金へのご協力、ありがとうございました！

児童養護施設「子どもの家」には、かつて路上で生きてきた子どもたちが暮らしています。しかし、数年間続いたコロナ禍でアイキャンは研修事業などの収入の柱を失い、「子どもの家」の運営継続が困難な状況に陥っていました。特に2024年2月までは収入の見込みがなく、2023年11月20日より「冬募金」を実施させていただきました。

その結果、多くの方が温かいお気持ちをお寄せくださり、期間終了の約1か月前に、目標としていた200万円を達成することができました。ご寄付を通して応援してくださった皆さま、本当にありがとうございました！

最終金額：2,423,870円
（ご協力くださった方：115名）

絵馬作りに挑戦

ビー玉やメンコが好き

成績優秀で表彰！

鶏の世話

誕生会

◆寄付者様からの応援の声（一部）

路上の子どもたちの現状を知り、胸が痛みました。子どもたちの居場所を何としてでも維持してください。

子どもたちがやっと手に入れた温かい家で、どうかこのまま安心して暮らしていってほしいと思います。

政府からの支援がない中で持続可能な活動をするのは本当に大変で難しいことですね。ともに知恵を絞っていけたらと思います。

◆スタッフの声

「子どもたちを路上に戻すことだけは絶対にしたくない！」という私たちの想いに、多くの方が共感してくださったことがとても嬉しかったです。
（日本事務局　天羽由実子）

子どもたちがここで暮らしながら学校を卒業し、夢を叶えられるよう後押ししていきます。
（ソーシャルワーカー　リサ）

路上には今もたくさんの子どもたちがいます。これからもっと多くの子どもを受け入れたいです。
（寮母　ジョナ）

◆路上の子どもたちとアイキャンの活動

アイキャンは、今も路上にいる子ども一人ひとりの「声」を聴き、「居場所」をつくる活動を通して、「路上の子どもたちが、路上生活以外の選択肢を知り、それを選択できる社会」を実現したいと考えています。

◆実施中および今後実施したいと考えている活動

【1】命を守り生きる基礎をつくる活動
・アイキャン職員による地域巡回見守り活動
・出生登録の手続き
・けがや病気を予防、治療するための保健・衛生活動
・児童養護施設「子どもの家」の運営
【2】 選択肢を増やす活動
・路上教育の実施（読み書き・計算・道徳教育、薬物の危険性や基本的な病気予防の知識等の提供）
・復学のための手続き
【3】 未来をつくる活動
・ソーシャルワーカーによるカウンセリング
・かつて路上で暮らしていた若者へのリーダー研修の実施（路上教育を担う人材として育成）

路上の子どもたちと話すスタッフ

「子どもの家」のレオ君と私

「子どもの家」施設長
マリテス
2002年にアイキャン入職。
栄養士。2021年より現職。

「子どもの家」に来たばかりの子どもたちに共通して感じることは、「**人との関わりを避け、人を信頼していない**」ということです。路上で生活しているときに、同じ年頃の子たちが学校に通うのを横目で見ながら、時には行き交う大人に暴言や暴力を振るわれながら育ってきたからかもしれません。レオ君（仮名）もその一人です。

ある日、「子どもの家」でいつも一人でいたレオ君から「どうして僕を助けようとするの？」と聞かれました。後に彼が打ち明けてくれたのですが、**「自分は助ける価値がない存在」**だと思っていたようです。路上生活で彼がどのような扱いを受けてきたのか、「路上の子ども」が抱える心の問題の重さが見えてきます。

「子どもの家」で勉強する子ども

レオ君はずっと学校に通えず、字も書けなかったため、11歳で小学校1年生になりました。初めは喜んで通っていましたが、他の1年生と比べ明らかに大きいため、他の児童や保護者から好奇の目で見られました。そしてある日「ストリートチルドレンだったんだろう」と言われたことで**「学校をやめたい」**と言い出しました。そのとき私は「あなたが卒業したいという夢を諦めたら、私はどうしたらいいの。あなたが頑張っているから、私も頑張れるんだよ」と伝え、飛び級試験（*1）を受けることを提案しました。その日からレオ君は「子どもの家」での補習授業にも懸命に取り組み、2度目の挑戦で4年生への編入が決まりました。この経験は「自分には価値がない」と思っていたレオ君が**「努力すれば成し遂げられる」と自分を肯定する大きなきっかけ**になったと思います。

勉強で分からないところを私に聞く子どもたち

私たちスタッフは、レオ君の頑張りを見ていたし、その頑張りは今も路上で生活している子どもたちを勇気づけるものだと思い、「若者議会」（*2）への参加を促しました。その「若者議会」の中で、小グループに分かれて、自分の大切なもの、辛かったこと、嬉しかったことなど、自分自身について語る場がありました。レオ君は、そのとき**初めてアイキャン職員以外の人に自分の経験を話しました。**

自分の大切なものなどについて語る日比の若者たち

その夜、レオ君は一人でベッドで泣いてしまったことを私に教えてくれました。理由を聞くと「自分は価値のない人間だと思っていたけど、他の子も僕と同じような経験をしていることを知った。僕は一人じゃないと思った。だから僕も自分のことを語ることができた。**自分にはこんな仲間がいる、自分も人前で自分のことを話せるんだと思ったら、嬉しくなって涙が出てきた**」と言いました。それは、長年の路上生活で自分の中に押し込められてきた、**本当の自分の価値、自分への自信や信頼を取り戻した瞬間**だったと私は感じました。

レオ君の将来の夢は画家になること

路上での辛い経験を乗り越えていくには、単に衣食住を満たすだけでは足りません。安心できるスタッフや信頼できる仲間との毎日の関わりが、彼らの心を変えていきます。私たちの向き合い方次第で、レオ君のような**子どもたちが心の傷を癒やし、自分の価値を見出し、辛い経験を乗り越えていく、そして本当の意味で「路上から抜け出す」力になる**のだと心に留めながら、今日も子どもたちと向き合っています。

＊1　飛び級試験…フィリピンには、The Philippine Educational Placement Test（PEPT）というテストがあり、そのテストの結果に応じて、適した学年に編入できます。

＊2　若者議会…日本とフィリピンの若者が集まり、自分たちが理想とする社会はどんな社会で、その社会の実現のために若者として何ができるかを考えるための活動。今年2月に、名古屋外国語大学の研修の中で行ないました。

協同組合カリエによる「リーダー研修」

協同組合カリエ
ジンボイ
10歳のときからアイキャンの活動に参加。

元路上の若者の協同組合「カリエ」は、パンや菓子の製造・販売を通して自立を目指していると同時に、**路上の子どもたちに教育の重要性や夢をもって努力することの大切さを伝える「路上教育」**を行なってきました。 活動を通して、学校に通いたいという気持ちを持てるようになった子どもや、諦めなければいつか路上生活から抜け出すことができるという希望を持てるようになった子どもが増えたと感じています。

しかし、37万人もいるとされる路上の子どものうち、僕たちカリエが日々関わることができるのはほんの一握りです。**各地域に、僕たちのように路上生活から抜け出し、他の路上の子どもたちに「路上教育」を行なえるような「リーダー」を育てたい。**そのような想いで、路上の子どもが多い地域での「リーダー研修」を始めました。

「路上教育」の様子

研修に集まった子どもたちに、僕たちはまず自分たち自身の経験を話しました。例えば僕は、路上で雑巾を売る姿を同級生に見られていじめられたこともあったけど、カリエのメンバーになったことで、**同じ境遇だった仲間と一緒なら頑張れる**と思えるようになりました。そして、同級生よりは数年遅れてしまったけど高校を卒業でき、今は大学を卒業することが目標であることを話しました。こうした実体験をもとに、**路上生活から抜け出すことは決して無理なことではなく、誰もが今からでも変わることができる**ことを伝えたかったのです。

「リーダー研修」の様子

研修後、何人かの子どもたちが**「僕たちが、この地域の『カリエ』になる！」**と言ってくれました。自分自身が路上生活から抜け出すだけでなく、僕たちのように他の子どもたちに伝えたいと思ってくれたことがとても嬉しかったです。これからも活動を続け、**一人でも多くの子どもたちに路上生活から抜け出すきっかけをつくりたい**と思っています。

マンスリーパートナーを募集しています

マンスリーパートナーは、月々1,000円からの一定額をご寄付いただき、アイキャンの活動および運営を応援していただく制度です。継続的なご寄付は、活動の持続・発展において大きな力となります。

ぜひマンスリーパートナーになって、私たちと「ともに」活動してください！

＊アイキャンは、名古屋市の認定を受けた「認定NPO法人」です。アイキャン発行の寄付金領収書を用いて確定申告を行うと、税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

↑詳しくはこちら

マンスリーパートナーの声：川井恵里子さん

マンスリーパートナーになって5年、アイキャンの活動レポートや誕生日に届くプレゼントから、子どもたちの支援になれている喜びを感じています。

私が次にできることは「支援の輪を広げること」。昨年、主催するヨガイベントで、書き損じハガキの募集や、売上の一部をフィリピンの子どもたちへのチャリティーにさせてもらう呼びかけを行いました。「支援をお願いする」というのは想像以上に「迷い」や「恐れ」が出るものだと実感した一方、参加者の方からは「支援に関われて嬉しい」という喜びの声が多かったことに驚き、そして私自身の大きな喜びとなりました。

大切にしている想いは「pay it forward」。人から親切を受けたら、その感謝を次の人へ渡す。そうした感謝の循環が広がると、私たちはいつも誰かから見守られ、助け合いながらともに幸せになっていける。そんな循環を広げられるよう、今後も微力ながら活動していきたいと思います。

子どもの通学を促進するために

フィリピン事務所
ジョアン

「同じ地域に住んでいて経済状況も似ているのに、学校に通う路上の子どもとそうでない路上の子どもがいるのはなぜだろう？」 この事業はそんな疑問がきっかけになっています。両者の違いはどこにあるのか。その違いを突き止めて、学校に通っている子どもの考え方や生活習慣を、そうでない子どもに共有していけば、**子どもたちの状況を改善できるかもしれない！**

教育の重要性を教えてくれる存在

聞き取り調査の様子

通学している路上の子どもに聞き取りをすると、安定した収入のある仕事に就くことや自分の夢の実現に、**教育が大きく貢献することを教えてくれる存在**が身近にいることが分かりました。そして、身近にいるそのような人の行動から、学校に通うにはどのようにすればよいかを学び、早寝早起きや日々のわずかな稼ぎからの貯金、体を清潔に保つことなどを実践していました。

「共有会」後の変化

共有会の様子

通学している子どもから、通学していない子どもへの「共有会」を行なったところ、**55名の子どもの行動に変化が起きました。**通学している子どもが実践している生活習慣に取り組むようになったのです。その理由として、多くの子どもが「同じ路上の仲間が実践していて、自分にもできると思ったから」と話しました。体を清潔に保てるようアイキャンが設置した簡易シャワー施設も、積極的に利用し始めました。

7名の子どもが復学！

子どもたちへの学用品提供

この半年間で、行動変化が起きた子どものうち7名が復学しました。そして地域住民にも嬉しい変化がありました。毎日シャワーを浴びるよう子どもたちに促してくれたり、シャワーを使う際に石鹸をくれたりするようになったのです。**子どもたちの周りに、通学を後押ししてくれる存在が増えた**ことは、とても大きなことです。これからも地域住民の理解と協力も得ながら、路上の子どもの課題に取り組んでいきます。

家庭でも栄養を意識できるように

フィリピン事務所
マデット

アイキャンでは、2019年から、マニラ首都圏の中でも栄養状態が悪い子どもが多いバセコ地区において、子どもたちへの給食活動を行なっています。しかし、**順調に体重が増える子どももいれば、給食活動によく参加していているのにあまり体重が増えない子どももいました。**その違いは何だろう？　調査したところ、家庭内での日々の食事内容が大きく関わっていることが分かりました。

栄養を意識してもらう工夫

提供されたお皿で食事をする子ども

そのため、給食活動に参加している47名の子どもたちに、**三大栄養素が描かれたお皿を提供**しました。このお皿は、フィリピンでは健康的な食事のために推奨されており、給食活動でも使用していますが、家庭でも栄養を意識してもらうためです。

家庭でも健康的な食事を

子どもたちからは「このお皿は、いつも野菜を食べるよう私に教えてくれます。見た目も好きだし、たくさん食べられます」などの声がありました。週5日の給食活動だけでなく、**家庭でも健康的な食事を日々意識できるようになれば**と思っています。

日本で暮らす外国籍の人々の課題に取り組む

事務局長　福田浩之
2013年入職。社会福祉士。
フィリピンに10年間駐在後、
2023年より現職。

岐阜県美濃加茂市は、人口の約1割以上が外国籍の方であり、その中でもフィリピン国籍の方が最も多くなっています。アイキャンでは昨年、同市で生活する**フィリピンの方々がどのような困難を抱えているか**を調査し、主に2つの課題が浮かび上がりました。

1点目は、**外国籍の方々の相談体制が充分に整っていない**ことです。自治体職員は「相談に応じたいが、外国籍の方々の文化背景を把握していないと難しいケースが多い」と対応に苦慮しているようでした。

2点目は、**社会構造により課題を抱える当事者と、そんな社会を変えたいという想いを持つ人々がつながり、ともに行動する機会がない**ことです。例えば、日本語が充分に理解できず、小学校の授業についていけないフィリピン国籍の子どもやその親が、そのような課題を解決しようと学童保育を運営している日本人の存在を知らないことなどが挙げられます。

フィリピン国籍の方が集まり
困り事を共有する会の様子

そこで、1点目の課題に対し、アイキャンは美濃加茂市役所と連携して、**フィリピン語での生活相談窓口を開設**しました。課題を聞き取って関係機関につなげるだけでなく、必要に応じて同行し手続きのサポートも行なっています。また、この窓口を通して把握したフィリピンの方々の生活課題を市役所職員にも共有し、課題の予防のために必要な対応を定期的に話し合っています。

窓口で把握した具体的な事例
について話し合うケース会議

2点目の課題に対しては、**当事者と同じくらい「何とかしたい」と思っている人々をつなぐ役目をアイキャンが担い、ともに何ができるかを話し合う**場を設けました。例えば、前述のような外国籍の子どもの日本語学習に関する問題に対し「何かしたい」という方々と集まり、どうすれば就学前の外国籍の子どもをサポートできるかを話し合っています。今後はその方々とともに、具体的な活動をしていく予定です。

岐阜出張所開設から1年

日本事務局/岐阜
吉田文

昨年、ひっそりと岐阜県揖斐郡揖斐川町に岐阜出張所を開所し、約1年が経とうとしています。活動は「場所」が起点となることが多いので、名古屋市以外にもその「起点」があればとずっと考えていました。**人と出会い対話をすることで、思いを形にする力が生まれます。その「場所」を新たに設けようと思いました。**これが、出張所の開所の理由です。

私はフィリピンへの出張もあるため、毎日開いているわけではありませんが、それでも**「場所」があることで外とのつながりが一気に広がり、応援者も少しずつ増えている**と感じます。岐阜出張所で実施した大学研修などを各メディアに何度か取り上げていただいたこともあり、郵便局に行ったり近所を歩いていても「新聞見たよ！応援してる！」「できることがあれば言ってね！」と声をかけられることも増えました。また隣町のNPOと連携して国内の課題（生きづらさを抱える若者の課題など）に携わったことで、国内でアイキャンが「できること」が何なのか、より明確に考えることができました。

出張所での大学研修受け入れの様子

まだまだ道半ばではありますが、**世界とつながったり、できること（ICAN）を実践したり、仲間と出会ったり、課題を解決したり、その起点となる場所として**今後機能させていきたいと思っています！

ビジョン・ミッションを再構築

ワークショップの様子。フィリピンからもオンラインで参加

アイキャンは、過去30年間の活動において確かな手ごたえを感じてきた反面、近年は財政的な困難に直面しています。これまで同様に今後も大切にしていきたい考え方や活動がある一方、社会の変化に柔軟に対応し、**望む未来をつくるために組織や活動のビジョン、ミッションを考え直す必要**が出てきました。そこで、昨年8月から今年4月にかけて計4回、外部講師を招いてのワークショップを行いました。

ワークショップでは、これまでのあゆみを積極的に評価しつつ、10年後の組織・活動のビジョンを描き直し、現状の課題を洗い出し、ビジョンの実現に向けた活動計画をスタッフ全員で作り上げました。**再構築したビジョン・ミッション**を胸に、10年後の目標に向かって、具体的に動いていきます。

再構築したビジョン／ミッション

【ビジョン（目指す社会）】 誰もがもてる力を発揮し、未来を切り拓くことができる社会

【ミッション（果たすべき役割）】

1、多様な背景を持つ人々の声に耳を傾け、誰もが自らの可能性と社会が抱える課題に気づく機会をつくります

2、その気づきを育て共有することで、課題解決に取り組む力を伸ばします

3、その力を持ち寄りつなぐことで、望む未来をともに目指します

◆スタッフの声

日々の業務に追われていると見えなくなることが多々ありますが、こういう機会を作り、講師の方に入っていただいたことで落ち着いて振り返り、考えることができました。
（日本事務局　藤目春子）

ビジョン、ミッションは、皆で言葉一つひとつを吟味し、作り上げることができました。改めて、全員が同じ想いを持ち、同じ方向を向いて進んでいけると思います。
（日本事務局　庭田美環）

◆講師の方の声

NIED・国際理解教育センター
伊沢令子さん

初回から比較すると、皆さんの関係がぐっと近づき、更に団結力が強まったと感じています。関わる皆が対等に話し合い、皆で決めたことには納得感があるので、自分事として主体的に推進していけるはず。1つ、2つ、とオモイをカタチにしていってください。

たくさんの物品のご寄付、ありがとうございました！

◆ブックオフコーポレーション「キモチと。」寄付額10％アップキャンペーン

昨年12月以降、二度にわたり寄付額10％アップキャンペーンを実施させていただいたところ、期間中に24件、計54,956円のご寄付をお寄せいただくことができました。ありがとうございました！！

◆未投函ハガキ等のご寄付

今年度も未投函のハガキ、未使用切手、未使用テレフォンカード、商品券を募集させていただいたところ、ハガキだけで360万円分を超えるご寄付となりました！（2023年5月～2024年4月分集計）　これは、**昨年度に比べて35％も増えた**ことになります。開設間もない岐阜出張所にもたくさん届きました！

近年は年賀状を書かれる方が少なくなっていることもあり、「今年度は未投函ハガキ等のご寄付が減ってしまうのでは」と心配していました。ところが、たくさんの温かいお気持ちをお寄せいただいた結果、上記のように昨年度を大きく上回るご寄付となり、大変感激しております。ほんの数枚でも役に立つのであればと送ってくださった方、フィリピンの子どもたちへの温かい励ましのお言葉を同封してくださった方、ご協力くださいました全ての方に、心より感謝申し上げます。

日本事務局
長谷川薫

フィリピンに行って、見て、触れて、感じる！
夏のスタディツアー参加者大募集！！

「社会」と「私」と「未来」を変える5日間。
一生モノの経験と、一生モノの思い出を。

【日程】　A日程：2024年8月7日（水）～ 8月11日（日）
　　B日程：2024年8月21日（水）～8月25日（日）

【旅行代金】98,000円（現地集合・現地解散）

【お勧めポイント】
1．路上の子どもが多く暮らす地域を訪問し、子どもたちと交流します！
2．児童養護施設「子どもの家」に宿泊し、フィリピン文化を堪能できます！
3．元路上の若者の協同組合「カリエ」と交流し、彼らの想いを聞けます！
4．通訳しますので語学力の心配はいりません。参加資格は「楽しみたい！」という気持ちだけ！

参加者の声：村上雅紀さん

ツアー中の出来事で今でも忘れられないのは、路上の子どもが言っていた「夢なんて持てない」という一言。その日生きるのに必死で将来のことなんて考えられない、ということが非常にショックで、何をする時も頭の片隅に彼のあの言葉が思い浮かびます。

帰国後は、その状況を広く知ってもらえるよう、大学の同期や後輩にツアーを強く勧めています。子どもたちは路上では辛かったかもしれないけれど、「子どもの家」には支えてくれる大人がいるし、2,600KM離れた所から幸せを祈る大人もいることを知ってもらいたい。いつか私が彼らにそう感じさせてあげられるようになりたいと思い、日々過ごしています。

チラシはこちら

資料請求はこちら

＊定員12名に達し次第、募集を締め切ります。資料請求、お申し込みはお早めに！

引き続き募集しています！

未投函ハガキ等

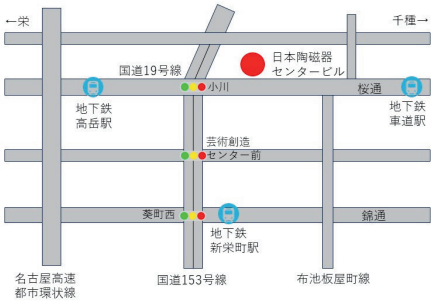
未投函の官製ハガキ等がお手元にありましたら、封筒に入れてアイキャン日本事務局までご郵送ください。
＊この会報をお届けした封筒の下半分を切り取り、ハガキ等送付用の封筒としてご活用いただくこともできます！

＜募集しているもの＞
未投函の官製ハガキ、未使用の切手、テレフォンカード、商品券、収入印紙
※ハガキは、書き損じのものや古いものでも構いません。

古本等

ブックオフコーポレーションとの連携により、古本等の買い取り額が、アイキャンの活動に役立てられます。古本以外にも幅広いアイテムが買い取り対象となっています。

キモチと。

お申込みはこちら↑

認定NPO法人アイキャン（ICAN）
【住所】〒461-0002　愛知県名古屋市東区代官町39-18
日本陶磁器センタービル5F　中部リサイクル運動市民の会内
【TEL&FAX】052-253-7299（休業日：日・月・祝）
【E-mail】info@ican.or.jp　【WEBサイト】https://ican.or.jp/
【Facebook】https://www.facebook.com/ICAN　【Instagram】ican_ngo